

ありがとうと言える子ども

言えることが大事？

まことの
保 育



浄土真宗本願寺派
保育連盟

「ありがとうと言おうねー」「ありがとうは？」こんな言葉を子どもたちに投げかけたことはないでしょうか？おそらく、多くの人に経験があるのではないのでしょうか。もちろん、子どもたちに「ありがとう」という感謝の言葉を言えるようになって欲しいと願い、声をかけているのですが、もっと大事なことがあるのではないのでしょうか。

とかく私たちは「ありがとうと言いましょ」というように、感謝の言葉を口に出すことを子どもたちに求めがちです。しかし「ありがとう」と口に出せることが大事なのでしょうか？私はずいぶん口に出さずとも、そのような思いを持っている人、ちがう形で表現する人など、様々なのではないのでしょうか。「ありがとう」という言葉を言えたか言えないかという形ではなく、そこに感謝する心があるか否かではないでしょうか。たとえ言葉には出なかつたにせよ、感謝する心を抱くことは素晴らしいことですし、逆に、たとえ「ありがとう」の言葉は出たけど、そこに感謝の思いがなく、形だけのものならば意味のないものとなってしまっているのではないのでしょうか。

人間が生きていくということは、多くの人や物の支えをうけているということなのです。当然ですが、私たちがこの身体を維持していくためには、動物の命を奪わずにはおれません。植物の命もいただいています。また様々な人の助けも必要です。ごはんを作ってもらうこと、など、直接助けてもらうこと、また時には温かい言葉や、やさしさなど大切な思いや心もいただいています。人との関わりなしには人間は生きてはいけません。さらには、私たちの生活には様々な「もの」も欠かせません。例えば、ごはんを食べる「はし」とどこかにいくときに利用する「自転車」など、多くの「もの」にも助けられながら生活しています。それらがなかったら私たちの生活は大変不便なものとなってしまいます。場合によっては生活が成り立たないというようなこともあるかも知れません。このように、私たちが生きていくということは、見えるところ、見えないところに関わらず、様々な形で支えられているのです。しかしながら、普段生活していく中では、多くの人や物に支えられていることはなかなか気づきにくいものです。また、気づいてもつい忘れってしまうのも私たちです。

「まことの保育」は仏教を中心とした保育です。仏さまの前で手を合わせるということは、仏さまをかみに自分の姿に気づかされていくということです。手を合わせ、普段忘れがちになっってしまう、私たちを支える多くの人や物に支えられながら生かされている自分をしっかりと感じていくこと、このことが大切なのではないのでしょうか。そのようなことを感じることができると子どもたちには自然に「ありがとう」があふれてくるのではないのでしょうか。

まことの保育の願い

合 草

伊藤唯道